

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4471200073		
法人名	特定非営利活動法人 オーバー		
事業所名	グループホーム ももたろう		
所在地	大分県豊後大野市清川町三玉686番地		
自己評価作成日	令和2年10月2日	評価結果市町村受理日	令和3年2月26日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/44/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=4471200073-00&ServiceCd=320&Type=search

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 第三者評価機構		
所在地	大分市上田町三丁目3番4-110号 チュリス古国府壱番館1F		
訪問調査日	令和3年1月14日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

職員全員が利用者さんの家庭での行動を常に意識し、家庭的な環境を作るように努めている。法人の理念である「住み慣れた地域で、その人らしさを大切に、ゆっくり・じっくり・しっかりと一瞬一瞬に寄り添い、安心して暮らせるようお手伝いします。」を常に考え、利用者さんがしたいときに、したい事ができるよう常に工夫し、それを可能にするための方法を常に模索している。自然環境を活かし外での活動を多く取り入れる心掛けしている。利用者家族もスタッフの一員としてとらえ、困った時等は協力してもらえるように体制を整えている。

当事業所は小規模多機能施設が併設されており、施設同士が日頃から合同イベント等で交流を行い、利用者の馴染みの関係継続や、生活活性化を図っています。また、運営推進会議のメンバーに利用者出身地区の民生委員の参加もあり会議後の面会も、利用者の楽しみの一つになっています。利用者の高齢化(最高齢100歳)に伴い安心して暮らしを支援する為に、毎月のモニタリングで介護計画の評価及び運動したケース記録の工夫、職員のサービスの実践について振り返りを行っており理念に真摯に向き合い信念を貫く姿勢が見られます。現在コロナ感染症対策により外出や面会等も制限されていますが、感染対策を徹底し、家族の面会を実施しています。事業所のこの一年の取り組みにおいて、行政や家族から評価の声が寄せられています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目№1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	利用者さんの対応に迷った時に、理念にそった 対応をとるように指導している。「ゆっくり、じっくり、しっかり」は全職員の対応の基本となっている。	地域密着型サービスの意義をふまえた理念が作成され、運営方針にも記載されています。理念は玄関や施設内に提示され、職員・家族等に周知され、全職員が日々のケアの中で理念に基づいたサービス提供を実践されています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の行事には積極的に参加し、地域の方が気軽に立ち寄れる環境づくりに努めている。地域の方より野菜等の差し入れも多くある。今年度はコロナウイルス感染予防対策で行事が中止や参加を見合わせる事態になっている。	地域行事の参加やボランティアの受け入れ相談等、地域との交流に積極的に取り組んでいます。近隣の方より差し入れ(野菜・花)や寄附も多く、コロナ禍の中でも地域との交流、関係構築ができています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域住民も高齢化が進み、地域の方からの相談も多くなっている。行事に地域の方を招待し、気軽に相談に来れるような環境づくりに努めている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2カ月に1回、行政職員、民生委員さんの参加も多く、意見交換・相談事など地域の関係づくりの 中心となっている。	行政・家族・有識者・職員代表者等のメンバーで2ヶ月毎に会議を開催し、活動の報告や意見・情報交換を行い、施設の理解促進に努め、挙げた意見をサービスの質向上に活かしています。コロナ禍の中、感染対策を行い実施しています。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市にも事業所の内容を理解して頂き、市の方も我々の運営がどうしたらうまくいかを考えていただき、協力関係が築かれている。	日頃より市に対して、業務全般における報告・相談等を行うとともに運営推進会議を通じて意見や情報交換を行う等、サービスの質向上に向け連携を図っています。また、月1回清川地区社協主催の会議があり行政・福祉関係者のメンバーにより情報交換を行っています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束適正委員会を設立し、2カ月に1回の委員会と身体拘束研修会を年2回実施している。職員の身体拘束に対する意識を強く持たせるよう努力している。	身体拘束排除における方針やマニュアルを整備するとともに、内部研修の実施や、外部研修への参加、啓発を行う等、全職員に向けて身体拘束排除の理解促進を図っています。玄関の施錠はせず、センサーは設置してありません。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	本人には虐待のつもりがない言葉による虐待に注意するように職員同士での気付きの重要性を意識し、その場での注意を指導している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	職員研修で話はしているが対象者がなく深い理解には至っていない。認知症高齢者と権利擁護の関係は強く、職員の理解につなげるよう努力したい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に書面にて提示し説明しているが、事前に見学や体験も可能であり、その時点で事業所の特徴も詳しく話し、十分理解してもらえるよう努力している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の希望は出来る限り反映するように心がけている。密な連絡をとる事により、家族の意見を多く聞けるよう努力している。本人の希望も家族に伝え、本人の思いは大切にしよう心掛けている。	家族の面会・電話連絡・運営推進会議等を活用して家族の意見・要望を確認し、サービスの質の確保向上に繋げています。職員研修計画の中に、「家族との関係構築」があり、話し合う機会を設けています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	副所長は、常に現場に常勤し、職員の言動を観察し、職員の意見を徴収し、状況を密に理事長に報告し、職員が意見しやすく働きやすい環境を整える努力している。	定期的に職員会議を開催し、全職員の意見・要望を確認し、ケアに反映させています。年2回の個別面談や日頃の職員との会話の中から出来ることは改善し、働きやすい職場環境整備に取り組んでいます。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	常に所長は、職員を観察し、いつもと違う表情等に早急に気付くように心がけている。作業環境についても同様である。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	できるだけ多くの研修に職員が交代で参加し、職場内研修で、研修報告を行い、職員全員が研修内容を理解し、共有できるようにしている。日常の業務では、看護師、介護福祉士認知症ケア専門士からの指導を受けながら業務している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	協力医療機関であるみえ病院を中心とした、豊後大野地域連携協議会に所属し、定期的に情報交換会に参加し、同業者との意見交換、医療を含めた交流ができています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人・家族による事前見学・体験を利用して頂き、本人・家族が納得し利用開始ができるよう 努力、工夫をしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の要望をしっかりと聞いたうえで、本人の気持ちと家族の思いにずれがないように、しっかり話し合い、事業所任せでなく、家族とともに介護するよう家族への意識付けをしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	家族からの話をケアマネが理解し、家族と共にサービスを考える。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は家族も一員であることを意識し、自分の 家族ならどうしてほしいか常に考え、行動するよう指導している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族には利用料を振り込みでなく、持参して頂くようにし、最低月1回の面会お願いしている。家族もスタッフの一員と考え、協力して頂き支援を行っている。密な連絡をとり、共通な情報を持てるよう努め、家族と近い関係を目指している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	病院・美容室等、できる限りこれまで利用していた施設を利用するようにつとめている。家族の協力もあり、一時帰宅、外泊も行い馴染みの人や場所との関係が途切れないように努めている。	地域行事への参加、馴染みの場所への外出、また、家族との外出・外泊は自由であり、家族関係継続も支援しています。利用者の出身地の民生委員が面会に来訪したりサロンの参加等支援に繋がっています。今年度はコロナ感染防止対策を徹底し、家族との面談も行われています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	その日、その時の状況に合わせた環境づくりに努め、同じ場所ではなく、その時に、本人が一番過ごしやすい場所探しに努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院等で契約解除になる場合は、病院の相談員と入所先のお世話を約束して頂き情報の提供を行う。退所後も家族の了解があれば病院、施設への面会も行う。契約解除後も多くの家族が訪問してくれている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	今、その瞬間を大切にし、その人の希望する事の実現に向けて常に考え行動している。また日常会話を大切にしその中からの情報を逃がさないように努めている。	日々の体調や気持ちの変化に注視し意向の汲み取りを行っています。家族とも連携しながら対応しており、情報は連絡ノートに記載し職員間で共有して本人本位の暮らし方に向けた支援に取り組んでいます。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族からの聞き取りだけでなく、日常会話から過去の情報を聞き出すように努めている。面会者からも多くの話を聞くようにしている。長年いる方でも常に新しい情報がないか探っている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者さんの身体の状況は、職員全員で共有し、家政婦さんではなく、介護のプロであることの意識を強く持つよう指導している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人の意見を一番に尊重しながら、家族の意見も取り入れ、必要ならば医療機関にも相談し、グループホームの職員だけでなく小規模多機能の職員も共にモニタリングを実施し介護計画を作成している。	利用者・家族・担当職員の意向や記録を基に介護計画を作成しています。目標の達成状況の確認や評価がケース記録の中に書き込まれ職員が動き易い工夫がされています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケース記録にすべてを書き込むように工夫し、ケース記録を見ればすべてがわかるようにしている。気づきの部分までの記録に努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	柔軟な対応は、ももたろうの最大の特徴であり、その日、その時、その瞬間に対応できるように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の行事には積極的に参加してきた。その結果多くの地域行事に招待されるようになり、地域からも受け入れられるようになってきた。自宅近辺の散歩等を行い地域の方と離れない工夫をしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人・家族の希望する医療機関の選択を実施、協力医のみならず、その他の医療機関とも協力体制を構築し、ターミナルまでの連携がとれるよう関係の強化に努めている。	オレンジドクターでもある主治医の往診、訪問看護、訪問歯科と、適切な医療がスムーズに受けられる体制が整っています。家族と密に連絡を取っており、「安心してお任せできる」と高い評価を頂いています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師の人数も増え、看護職との協働は強化された。また、訪問看護(医療)の活用により、利用者が適切な看護を受けられるように支援している。		
32		○入院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は頻繁な面会を心掛け、利用者さん安心して頂くとともに、担当看護師さんとも密な情報交換ができる機会を得ている。病院との話し合いにより認知症の進行を防ぐために、早期退院に向け医療機関も協力して頂いている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ほとんどの家族が、ももたろうでの看取りを希望するようになった。そのため、医療機関もその方向での全面協力を得られるようになった。看取りに消極的だった医療機関も話し合いの末、協力体制ができるようになってきた。職員も経験を重ね、ターミナルの対応にレベルアップ出来た。	医療機関との協力体制も整っており、経験を重ねる中でターミナルケアへの対応も安心して任される職員も増え、看取り経験のない職員には適切なアドバイスや経験談を語り安心して仕事ができるように指導を行っています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	年に一度は救命救急の訓練を実施し、全職員が誰でも急変や事故発生時の初期対応ができるように努めている。また、その時には個人でなく、しっかりチームで動くよう指導している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	各地で多くの災害が起こっており一層の強化を図るよう努めている。事業所の避難訓練には近隣の住民も参加して頂いている。	年2回避難訓練を行っています。消防署・地域住民の協力体制が構築されています。夜間訓練(19時～20時)の際には利用者を起こして、利用者参加型の訓練にも取り組まれています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人生の経験者としての尊厳を常に持ち、一人の人としての尊厳のわかる言葉かけを常に意識している。	プライバシー保護・個人情報漏洩の研修会も定期的に行っています。研修会を欠席した職員に対しても研修会ノート等で確認して頂いています。日常会話の中でも理念の中にある「一瞬一瞬に寄り添い」を大切に、返答に対しても誇りを損ねない言葉かけに取り組まれています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	常に自己決定を優先し支援している。また、日常会話の中から本人の思いや希望を拾い出せるように努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	瞬間を大切に、「ちょっと待つて」はダメな言葉と意識し、理念に沿った援助ができるように努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	女性の利用者が多く常に気遣っている。男性利用者さんは特に本人が気にしないので職員が支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	季節感を大切に、個人の状況に合わせた食事を提供している。退院後の方には病院の栄養士より指導を受け、嚥下の悪い方には病院より嚥下指導等を実施して頂き食事を楽しめるように各機関とも協力している。栄養士を採用しました。	職員に栄養士が加わり専門的な栄養状態のチェックを行い、食事の提供等がスムーズに行われています。コロナ禍の中ではお出かけ行事の際には手作り弁当を持参していません。特にお雛様の行事食は「目で見て楽しんで頂きたい」との思いがこもった行事食となりました。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	医療機関との協力により、その方の体調を十分理解し、一人一人に合せた支援を行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、本人に出来ることはして頂きながら、本人に合わせた支援を全利用者を実施している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄のパターンをチェックし、出来るだけトイレでの排泄を実施している。オムツ用品の購入も金銭的な負担が大きい為出来る限り汚さないように努めている。	排泄記録を活用して一人ひとり、こまめな声かけを行い、トイレまで誘導を行い失敗を少なくするように取り組まれています。その取り組みからオムツ用品の削減につながるように努力しています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	薬での調整が必要な方は、医療機関との連携により、調整を行う。また、車いすに座ったままにならないよう運動の支援にも力を入れている。排便の有無をしっかりと把握する為にチェック表を使用している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に合わせた支援をしている	その人のタイミングに合わせた入浴ができるよう9時から16時までではいつでも入れる体制をとっています。入浴方法も、その方の好みに合わせた入浴方法を実施しています。	9時から16時まで毎日いつでも入浴で来るように取り組まれています。レベル低下がみられる利用者には2人体制を取り安全面に考慮しています。柚子や入浴剤を使用することで季節感や心地よく入浴して頂けるように取り組まれています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	部屋はその人の好みに合わせた環境・用品を工夫しその人にあった休息・安眠が出来るよう努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬管理ができる利用者さんは現在いない状況で、看護師を中心として管理している。ボードを作り誰が見てもわかるようにし、誤薬のないよう工夫している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	多くの刺激を意識し、支援を心がけている。脳トレーニングには、力をいれ、本人が出来るようなものを選択し、できる喜びを感じていただけるように努めている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	職員の用事や自分の必要な物(リハビリパンツ等)の購入の同行等少しでも多くの外出が出来るよう努めている。	コロナ禍の中での外出に気を配りながら、人混みの少ない時間帯や場所を探し日常的に外出を行っています。事業所は敷地が広く自由に散歩もでき、敷地内には他事業所が併設しておりお互いに交流が持てるよう取り組まれています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人の状況、家族との話し合いにて、可能にしている。また、本人の買い物やホームの支払いなど利用者さんにレジで払って頂くなど買い物をしている実感を味わってもらえるようにしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	自由に可能である。年賀状等も出せる支援を行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者同士の関係にも十分配慮しながら、居心地の良い環境作りに努めている。	テーブルにはデスクパーテーションを設置しています。空気清浄機を完備し徹底された感染対策を取られています。今年の干支、丑の顔を切り抜き利用者全員の写真を飾り季節感を漂わせています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	その時の状況に合わせ、本人が一番過ごしやすい場所の工夫をしている。一人になりたい時には自室を利用して頂いている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自室には何を持ってきていただいても良い。家族とも話し合いながら、本人の状況に合わせ常に工夫している。	自宅で使用していた使い慣れた物品等、自由に持ち込むことが出来ます。各部屋には誕生日ごとにその方に送る言葉や表情豊かな写真を入れたり、工夫した職員手作りの心のこもったプレゼントが飾られていました。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	2ユニットになり、二つの特徴をもつ別空間が出来施設内でも移動できる距離が増えた。安全面には十分に注意し、利用者さんが自由に動ける空間作りにつとめている。		